

PART 1 「意識改革」編

§1. ウォーミングアップ

この本は私の勤務する大学の学生を相手に行った15回の授業を、一般の方にもぜひ読んでいただけるよう書籍として編集し再現したものです。

どんな授業だったか？

大学が15回の授業の最後に行ったアンケートでは、5段階評価で「4.93」という平均スコアを記録したそうです。

受講者のほぼ全員が、すべての項目で最高点の5点をつけてくれたことになり、その学期の全授業の中でナンバーワンだったとのこと。

まさかこんなに高い数字とは驚きました。

次のページに受講者の感想を掲載しておきます。

「英語が読めるとはこういうことだったのか！」など、これらを見ると、今までの英語の授業と違っていたこと、知識が増えたというより、まさに考え方が変わったこと、意識改革が起こったことがよくわかるのではないのでしょうか。

おそらく読者の皆さんも、読み進めるうちに同じような感想を持つのではと思います。

それを期待しながら、本書の授業をスタートさせることにしましょう。

【受講者の声】

「今まで受けた英語の授業の中で間違いなくナンバーワン」

「中学高校で受けていたら人生が変わっていた」

「英語が超苦手だった私が今スラスラ読めていることに感動」

「中学高校の先生はズルいと思う。こんなすごい方法があるなら教えてほしかった」

「英語が読めるとはこういうことだったのか!」

「英語ってこんなに簡単だったんですね」

「今まで、ただ単語が並んでいるだけしか見えなかったが、今は並んでいる意味がわかる。感謝です」

「たった半年でここまで変わるとは信じられない。ありがとうございました」

「初めて英語の授業が楽しいと感じています」 etc.

意識改革 ①

あなたに必要なのは、知識を増やすことではなく

☞ 意識を変えること、考え方を変えること

☞ そうすれば、あなたも英語が読める人になれる!

§2. 「自分なりに訳して」の不思議

それではさっそく授業にうつりましょう。

皆さんは今まで、例えば高校までの英語の読解の授業ってどんな感じでしたか？

Aさん 「先生が英文を読んで、当てられて訳してみろと言われて、自分なりに訳して、先生が正解を言う感じ？」

Bさん 「教科書の英文を自分なりに訳して行って、先生が授業で解説してくださるとい感じ？」

そうですね。今までの授業ってそんな感じですね。

つまり、教科書の英文を自分なりに訳して、先生が解説をして正解の訳を言うという授業ですね。

自分なりに訳して



先生が正解を解説

でも、これっておかしくないですか？

そもそも「自分なりに訳して」っておかしいですね。そこを教えてほしいのに...

本来は「正しい訳し方」を教わって、その方法にならって自分で訳すというプロセスが必要のほうですね。そうすれば先生の解説は不要になるので...

つまり、本当の先生の役割は「自分なりに訳して」の“前の段階”なんですよ。

「正しい訳し方」を習って



ひとりで訳せるようになれば



先生の解説は不要になる！

ここを教えるのが
本来の先生の役割

予習の段階で正しい訳し方って習ったことある？

皆さん 「予習の段階で？ ないです」

そうですね。

本書は、その正しい訳し方をあなただけにこっそり教えますので(笑)、ぜひマスターしてください。

そうすれば先生の解説は不要になりますね。

皆さん 「お願いします!」

ずっと先生がそばにいないと、正しい訳がわからないなんて嫌ですよね。英語の先生に一生そばにいてほしいですか？

皆さん 「たしかに嫌ですね(笑)」

意識改革②

「自分なりに訳して」の前に

☞ 「正しい訳し方」を習って

☞ 先生の解説を不要にすることが



本書の目的!!!

§3. 本当のゴールとは？

つまり、今までは教科書の英文をただ先生が解説をしてくださるという感じですね。学校では、先生が教科書の英文の解説をして生徒がそれを聞くことがゴールになってしまっています。

Aさん 「それでいいのでは？ おかしいのですか？」

でも、それで読めるようになりましたか？

Aさん 「まったく(笑)」

Bさん 「解説を聞いているとわかるのですが、いざ自分で読もうとすると、さっぱり読めないですね」

この方法だと教科書の英文は確かに完璧に読めるようになるかもしれませんが。しかし、入試や英検やTOEIC®の問題は教科書の英文から出るのですか？
実は教科書の英文だけは使ってはいけないのですよね。
例えば、〇〇高校の教科書の英文が東大の入試英文に出たら大問題ですよ。なにか癒着があるのかと思われまから。

皆さん 「たしかに(笑)」

つまり、入試英文も英検もTOEIC®も、すべて試験場で初めて見る文が自力で訳せるかを問われるのです。そこにギャップがあるのです。

学校 = 教科書の英文だけ解説

入試など = 教科書の英文だけは出してはいけない



つまりゴール設定が間違っているのですね。

目指すべきところがずれているのです。

本当のゴールは、初めて見る文(それまで習っていない文)を自力で訳せるようになることであり、それがあなたの目的ということなのです。
違いますか？

皆さん 「なるほど、そうか!」

それに気づいた人が

難関大学に合格する人であり、
英検に合格したり、
TOEIC®で高得点を取る人

なのです。

私も大学受験の浪人時代によくこの事実に気づきました。

教科書の英文の解説を有り難く聞いて丸暗記している人ではなく、初見の文を自力で読める人が、英語が読める人と呼ばれるのです。

意識改革 ③

「初めて見る文」を「自力」で訳せるようになることが

- ☞ 本当のゴールであり
- ☞ あなたの目的!

§4. あなたが「初めて見る文」を読めない理由

例えば、次の文は皆さんにとって「初めて見る文」ですよ。

For thousands of years, marriage had been a primarily economic and political contract between two people, negotiated and overseen by their families and communities. (早稲田大・法)

この「初めて見る文」が「自力」で読めるようになればいいわけです。

まずは質問です。

質問 この文の何がわかれば「読めた」ことになると思いますか？
単語の意味はすべて書いておいたとしたら、あとは何が必要？

Aさん 「いわゆる文法ですか？」

Bさん 「構文かな、たしか構文を暗記しないとだめですよ？」

Cさん 「文の構造だと思えます」

さすがですね、皆さん合っているといえば合っているのですが、具体的にはどういふことでしょうか。「文法」って何？

今度は皆さんに問題です。

問題1 次の日本語を英語に直してみてください。

学校 ☞ _____

Aさん 「それくらいわかりますよ、スクールですよ？」

そう、正解は school ですね。これは簡単。

学校 ☞ school

問題2 では次の英語を書いてみてください。

学校は ☞ _____

Aさん 「学校は？ 『は』って英語で何と言うんでしたっけ？」

そう、「学校」ではなく「学校は」ですよ。わかりますか？
前に教えた人で「歯 (tooth)」と書いた人がいましたが(笑)。

問題3 では次の英語を書いてみてください。

学校を ☞ _____

Bさん 「学校を？ 『を』って英語で何と言うの？」

そうですね、わかりますか？ 尻尾の尾でしょうか???

問題4 次の英語は？ 書いてみてください。

学校で ☞ _____

これも書けないと思います。

つまり、皆さんが英語を読めない理由、それは

**中学高校と6年間も英語を習っているのに
「てにをは」を習っていないから**

なのです！

「は」は英語で何という？ 「を」は？

実は誰も知らない、誰も習っていないですよ。

意識改革 4

あなたが「初めて見る文」を読めない理由

☞ それは「てにをは」を習っていないからなのです！